

# 小学校英語教科書に表象される ジェンダーの多様性と画一性

水澤祐美子

## 1 はじめに

世界経済フォーラム（World Economic Forum: WEF）が2021年3月に *The Global Gender Gap Report 2021* を公表し、各国における男女格差を測るジェンダーギャップ指数（Gender Gap Index: GGI）が明らかになった。GGI は、「経済」「政治」「教育」「健康」からなる4分野で構成され、日本の GGI 総合スコアの順位は、参加 156 カ国中 120 位となった。この順位は先進国の中で最低であり、東アジア諸国の中でも韓国や中国より低い結果となっている（World Economic Forum, 2021）。前年度の調査で、日本の順位は 121 位だったので、本年度の順位はほぼ横ばいとなっており、図 1 のグラフが示すように、2006 年と 2021 年の GGI を比較しても、顕著なスコアの上昇を確認できない。国が「男女共同参画社会基本法」を 1999 年に制定し、男女共同参画社会を「男女が、社会の対等な構成員として、自らの意思によって社会のあらゆる分野における活動に参画する機会が確保され、もって男女が均等に政治的、経済的、社会的及び文化的利益を享受することができ、かつ、共に責任を担うべき社会」（男女共同参画社会基本法第 2 条）と定義して以来、20 年以上が経過するものの、GGI の総合スコアの結果が示すように実社会においては、男女共同参画社会からは程遠い。

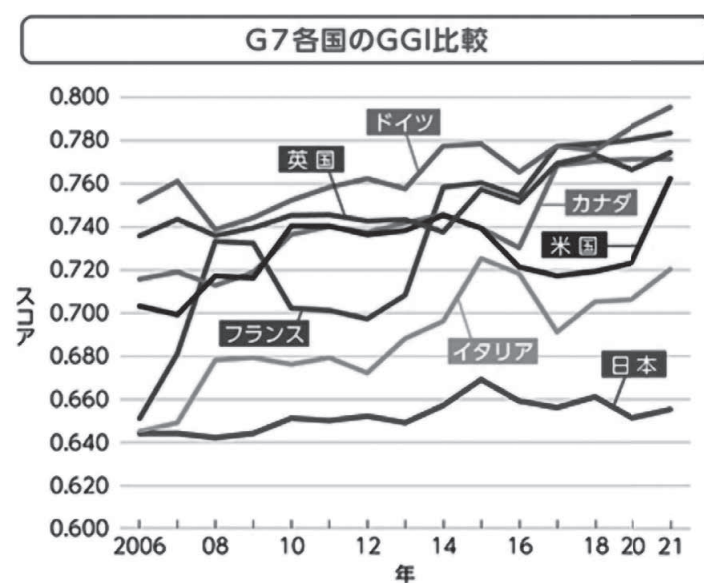


図 1. G7 各国における時系列 GGI 比較グラフ（内閣府男女共同参画局総務課，2021, p. 8）

男女共同参画社会を実現するためには、特定の性別が、仕事や家事、リーダー的な役割を担うといった固定概念にとらわれず、経済的にも社会的にも対等に活動が行えるような社会制度や慣行のあり方を考える必要がある。このような社会を実現するためには、固定概念を変えていく必要があるものの、この固定概念を変えることは、たやすいものでない。

日本における男女共同参画の進展が不十分な要因のひとつとして、固定的な性別役割分担意識や無意識の思い込み（アンコンシャス・バイアス）の存在が挙げられる（内閣府男女共同参画局総務課，2021）。「親が単身赴任中です」と耳にすると、「親」は父親を思い浮かべることが多い。これは「単身赴任という働き方を選択するのは父親だ」というようなアンコンシャス・バイアスによるものである。これ自体に良し悪しはない。しかし「単身赴任する親が母親だ」という状況を耳にし、「え？母親なのに単身赴任？お子さん、かわいそうね」といったアンコンシャス・バイアスによる反応が、母親本人やその家族を傷つけてしまうことがある（守屋，2021）。このようなアンコンシャス・バイアスは日本に限ったことではない。たとえば、Harvard Business School の学生を対象としたアンケート調査では、性別に関わるアンコンシャス・バイアスによる興味深い結果が出ている。学生を2つのグループに分け、ひとつのグループには実在する起業家 Heidi Roizen を紹介しアンケート調査を行なった。学生の多数が Heidi の素晴らしさを認めながらも「世渡りが上手そう」「自分の上司には嫌だ」といった Heidi に対する否定的な意見を述べた。一方、もうひとつのグループの学生には、同様の内容を説明しながらも、起業家の名前だけ女性名 Heidi から男性名 Howard に変更した。その結果、Howard という男性の起業家は学生たちから「頼もしい」「上司にしたい」など、好意的に受け取られていた（Sandberg, 2015）。このアンケートが明らかにすることは、社会で活躍しリーダー的な役割を担う男性は肯定的に、女性是否定的に捉えられていることである。アンコンシャス・バイアスによるものが、この結果の要因と考えて良いだろう。

社会や文化の求める役割は、子どもが自身をとりまく世界との関わり、ことばを話し聞くことによって、学ばれていくと社会言語学者の Bernstein は述べている（Bernstein, 1970）。なかでも、ジェンダー発達は、生物学的要因に加え、社会環境や子ども自身の認知発達が複雑に影響していると言われる（Ruble, Martin, & Berenbaum, 2006）。他の社会規範と比較し、ジェンダーにおける社会規範は早い発達段階から形成される（Thorne, 1993; 伊藤, 2006; 石川, 2020）。もし子どもにとって身近な書籍である教科書にジェンダーに関わるアンコンシャス・バイアスがあるとすれば、これまで無意識的に再生産されている社会的位置づけや男女共同参画を目指す社会モデルにも影響を与えるであろう。

そこで本稿では、教科書、なかでも 2020 年度から教科化された英語教科書を対象とし、どのようなジェンダーモデルが描写されているかを析出し、もし存在するのであれば、画一性と多様性を明らかにすることを目的とする。

## 2 背景

2020 年度から新小学校学習指導要領の全面実施に伴い、高学年（5・6 年）で英語が教科化された。年間 70 時間「外国語」が実施され、成績がつくことになった。中学年（3・4 年）では、教科化はされていないが、年間 35 時間の「外国語活動」が行われる。英語が教科化される以前は、小学校外国語活動の教材として

2012年4月から2018年3月まで高学年向けにHi, friends! 1, 2（東京書籍）が発行された。その後、2018年4月から2020年3月まで、小学校での英語教科化を含む新学習指導要領への移行期間として、中学年向けにLet's Try! 1, 2が、高学年向けにWe Can! 1, 2（東京書籍）が発行された。Let's Try! 1, 2は2020年度以降、中学年向けに使用されるものの、英語が教科化された高学年向けに、7社が英語科教科書を出版することになった。言語は異なるが、小学校国語科教科書が4社から出版されていることと比較すると、英語科教科書を扱う出版社は7社であり、教員にとっては選択肢が多いものとなっている。

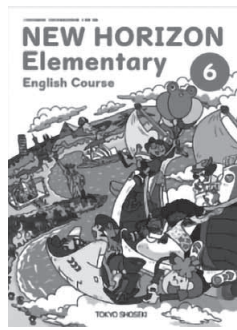
東京都教育委員会が2019年に発表した資料によれば、東京都の公立小学校に限ると、令和2～5年度に東京都54市町村地区で採択された英語科教科書のなかで、NEW HORIZON Elementary（東京書籍）が19区市地区村で採択され、一番の採択率となっている。次にHere We Go!（光村図書）が11区市地区村、Crown Jr.（三省堂）とONE WORLD Smiles（教育出版）が8区市地区村、Junior Sunshine（開隆堂）とJUNIOR TOTAL ENGLISH（学校図書）が3区市地区村、Blue Sky（啓林館）が2区市地区村と続く（東京都教育委員会，2019）。NEW HORIZON Elementaryが多くの区市地区村で使用されているのは、英語が教科化される以前に教材として使用されていたHi friends!, Let's Try!, We Can!を発行していた出版社である東京書籍が発行することによるかもしれない。表1に出版社と教科書のタイトルを記す。

表1：小学校英語科教科書を発行する7社とタイトル

出版社	教科書タイトル
東京書籍	NEW HORIZON Elementary 5 / 6（補助教材：Picture Dictionary）
光村図書	Here We Go! 5 / 6
三省堂	CROWN Jr. 5 / 6
教育出版	ONE WORLD Smiles 5 / 6
開隆堂	Junior Sunshine 5 / 6
学校図書	JUNIOR TOTAL ENGLISH 1 / 2
啓林館	Blue Sky 5 / 6

各教科書の表紙は、6社がイラスト、1社が写真を採用し、それぞれに特徴あるものとなっている（図2）。

東京書籍



光村図書



三省堂



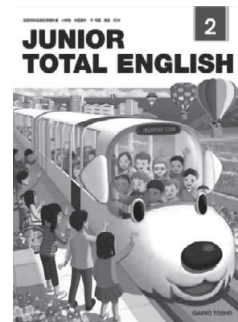
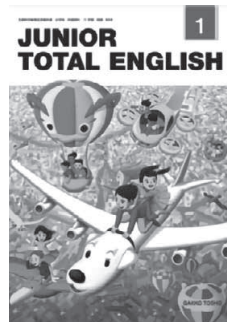
教育出版



開隆堂



学校図書



啓林館



図 2. 7 社が発行する小学校高学年用英語教科書の表紙

イラストはカラフルで、躍動感のある動作が描写されている。描かれている人物の肌の色は多様性に富み、児童が着用する衣類にさまざまな色が使用されていたり、女子がスカートだけでなく、ズボンを履いていたっている。



### 3 先行研究

教科書は、子どもにとって身近な書籍のひとつである。それゆえ、子どもに与える影響も大きい（石川，2020）。教科書に表象されるジェンダーを扱った研究は、教科にかかわらず多くなされてきた。中学校社会科教科書を戦後 1948 年から 1997 年まで時系列に分析した氏原（1997）は、年代が進むにつれて男性中心としたメッセージ性は薄らいでいるものの、依然、職業におけるジェンダー差は存在していると指摘する。小学校国語科教科書を分析した味吞（2017）は、新しいジェンダー像が見られる箇所があるものの、多くの場面では既存のジェンダーによる分業が行われていると指摘している。小学校国語科教科書において物語教材の主要登場人物の 7 割が男性であるという研究もある（永田，2012）。

外国語科の教材選定においては、価値の多様性に気づかせ、異文化を理解し尊重する態度を育成することが求められている（石川，2020）。このことから、英語科教科書は、他の教科よりも文化の違いについて敏感でなければならないだろう。さらに石川（2020, p. 5）は「学習者の最も身近な異文化となる異性を理解し尊重する態度を育成し、男女共同参画社会を支える資質を育成することもまた、外国語科が担うべき重要な課題のひとつであると言えよう」と述べている。

これまで英語科教科書については、高等学校や中学校英語科教科書を分析し、ジェンダーによるステレオタイプが明らかにされている（石川，1999, 2004, 2020; 森住，2020）。しかし、小学校英語科教科書においては、教科化されたことが最近ということもあり、その研究は少ない。そこで本研究では小学校英語科教科書に描写されるジェンダーを分析し、多様性と画一性を探ることを目的とする。

### 4 分析手法と分析対象

本節では、ジェンダーのアンコンシャス・バイアスを明らかにするための分析手法と分析対象を記す。

#### 4.1 分析手法

本研究では、分析にあたり選択体系機能言語学（Systemic Functional Linguistics, 以下 SFL）における分析手法を応用する。SFL は、1960 年代に M. A. K. Halliday が理論の基礎を築き、その後 Halliday 自身や Hasan、Martin、Matthiessen らが理論を発展展開させていく。SFL は言語を記号体系として捉え、言語を通して具現化される意味に焦点をあてる（Halliday, 1994）。SFL は、言語を個人に内在する現象ではなく社会的であるとし、説明においては言語を心理的というよりも社会的なものとして見なすことを特徴とする。

近年では、SFL をことば以外の図像といったようなモード（mode）に応用した multimodality に関わるアプローチも研究されてきている（Lemke, 1998; Batemans, 2008; Kress 2009, O'Halloran, 2011; van Leeuwen, 2021）。このアプローチでは、たとえば、図像やことばといった一見すると異質であるモードが、それぞれのモードで作る以上の意味を具現することができるということを研究の対象とする。

そこで、本研究では、英語科教科書の絵（写真）とことばをそれぞれに分析したのち、異なるモードから

具現された synergistic effects を探り、そこに隠された意味を明らかにすることを目的とする。

#### 4.1.1 メタファンクション

SFL では、言語を 3 つの意味から捉える。その 3 つの意味とは、経験的意味 (experiential meaning)、対人的意味 (interpersonal meaning)、観念構成的意味 (textual meaning) である。経験的意味は人が自身の内外で起きていることをどのように捉えているかを、対人的意味は人が相手との関係性をどのように捉えているかを明らかにする。そして観念構成的意味は、前述の 2 つの意味がまとまりのあるテキストと見なされるために、どのように織り成されているかを明らかにする。この 3 つの意味をまとめてメタファンクションと呼ぶ。

#### 4.1.2 層化

上述の 3 つの意味は多層的に解釈される。まず、語・音の層 (wording / sounding) があり、それらによって語彙・文法 (lexicogrammar) 層が具現 (realise) される。さらに語彙・文法層が意味層 (semantics) を具現し、これらの 3 つの層は、言語資源と呼ばれ、状況のコンテキスト、さらに文化のコンテキストに内包される。この概念を層化 (stratification) と呼ぶ。

#### 4.1.3 TRANSITIVITY

語彙文法層で経験的意味を明らかにするため、TRANSITIVITY というシステムが使用される。TRANSITIVITY では、動詞は過程 (process) と呼ばれ、その機能によって 6 つの型に分類される。それらは、何かを行う際に使用される物質過程 (material process: to catch, to help<sup>i</sup>)、何かが存在する際に使用される存在過程 (existential process: to exist)、be 動詞を表す関係過程 (relational process: to be)、何かを発言する際に使用される発言過程 (verbal process: to say)、何かを考える場合に使用される心理過程 (mental process: to think)、そして、物質過程と心理過程の中間に位置するものが、行動過程 (behavioural process: to breathe) である。一般的な文法用語では主語や目的語とされている対象が、SFL の枠組みでは過程型により細分され、より詳しい意味を把握することに役立つ。たとえば、物質過程では、The lion caught the tourist. という文を以下の表 2 ように分類する。

表 2：物質過程と能動態と受動態におけるラベル

The lion	caught	the tourist.
行為者	物質過程	対象

The tourist	was caught	by the lion.
対象	物質過程	行為者

本稿では、具体的な行為を扱う物質過程に焦点を当てる。その理由は、物質過程に焦点を置くと、「動的」な形が捉えられるという考えによるものである。

## 4.2 分析対象

本研究において、教科書に描写された内容から意味を検討し、画一性と多様性を明らかにするにあたり、分析対象は7社から出版されている高学年向け英語科教科書14冊とした。教科書の絵(写真)の部分とことばの部分とを析出し、次に絵とことばといった異なるモードから作られる意味を考察する。

たとえば、一番多くの市区町村地区で採用されているNEW HORIZON Elementaryは、5が96ページからなり、その後ろに厚紙でできた切り取り可能となっている表に大文字、裏に小文字を記すアルファベットや色・食べ物・動きを英語にしたフラッシュカード、本文の各Unitで使用するブランクに児童が書き込むことのできる「身近な人物紹介カード」「名刺カード」「バースデーカード」「夢に近づく時間割」などが付されている。同6も96ページからなり、その後ろに厚紙でできた児童自身が絵を見て完成させるフラッシュカードやUnitごとに完成する「プロフィールカード」「宝物紹介カード」などが付されている。NEW HORIZON Elementaryにおける主な登場人物は、6人となっている。目次と同じページに記されている登場人物の紹介によると、6人は、日本人小学生、伊藤さくらと木村ひろし、シンガポール出身のEmily Smith、ブラジル出身のLucas Silva、担任の田中ゆうじ先生、アメリカから来ている英語の先生Ms. Lisa Greenである。

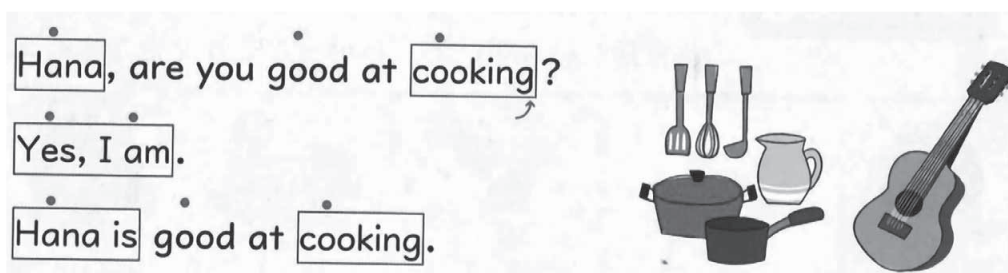
## 5 結果

本節では、ことばの部分と絵の部分とをそれぞれに分析した結果と、2つの異なるモードから具現されたsynergistic effectsを記す。

小学校高学年向け英語科教科書14冊概観すると、学習指導要領に記述されているように、英語コミュニケーションに重点がおかれている。とくに5年生用教科書では、絵の占める部分が多かった。

### 5.1 ことばの部分

いくつかの物質過程を例にとりジェンダーにおけるアンコンシャス・バイアスを考える。その一例として、女性の家事役割が挙げられるだろう。家事に関連の深い物質過程のひとつに(to cook)がある。物質過程(to cook)が含まれる文の行為者は、女子児童が多く析出された。たとえば、文(Hana, are you good at cookingやHana is good at cooking.)では、Hanaという女性名が使用されている(図3)。



啓) 5年 p.57<sup>ii</sup>

図3. 物質過程 to cook とその行為者 Hana

料理する (to cook) という物質過程の行為者が I の場合 (I can cook very well. や I like cooking.) は、文の隣に女子の絵 (図 4 上段) や写真 (図 5) が掲載されているので、行為者の I は女子であると理解される。一方で、男子児童が「料理が上手」ということばの部分も 1 例ではあるが確認できた (図 4 下段)

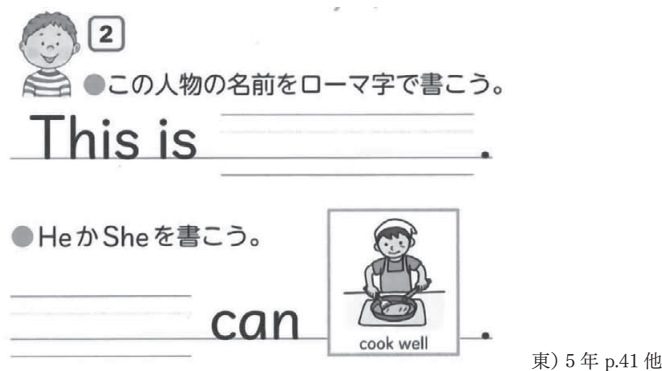


図 4. 物質過程 to cook とその行為者 He



図 5. 物質過程 to cook に関連する文とその行為者 (オーストラリアの女子児童)

## 5.2 絵の部分

今回分析対象とした小学生高学年向け英語教科書では、英語という言語に慣れるよう、物事や感情を表す絵と対応する語彙を示す場面が多い。その中でも、職業、家事、児童が着用する衣料品に焦点を当てる。

### 5.2.1 職業

職業を紹介する絵が多く見られ、それらの絵に性差による偏りがあった。校長を描く絵は、男性がほとんど (図 6) で、女性の校長は 1 名だけだった (図 7)。





啓) 6 年 p.63 他



school principal's  
office

啓) 6 年 p.133



光) 6 年 p.81



graduation day

光) 6 年 p.129



graduation day

光) 6 年 巻末

図 6. 男性によって描かれた校長



教) 5 年 p.96

図 7. 女性によって描かれた校長

女子学生に人気のあるフライトアテンダントといった職業は、女性のみが描かれている（図 8）。

a flight attendant

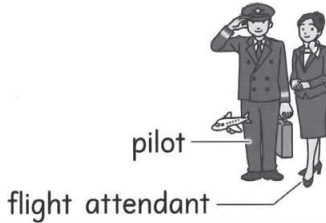


光) 6 年 p.95



a flight attendant

光) 6 年 p.97



光) 5 年 p.119 他



教) 6 年 p.88 他



啓) 5 年 p.76 他



開) 6 年 p.60 他



学) 5 年 p.149 他



学) 6 年 p.101

図 8. 女性によってのみ描かれたフライトアテンダント

他の職業についても、ジェンダー差に偏りが見られたものが多い。表3に職業のいくつかの例を挙げる。

表3：職業に表象される性別

職業	女性	男性
校長	1例のみ	多い
フライトアテンダント	100%	なし
パイロット	1例のみ	多い
幼稚園の先生・保育士	多い	少ない
看護師	多い	少ない
医師	ほぼ同数	ほぼ同数
消防士	少ない	多い
警察官	少ない	多い
花屋の店員	多い	少ない
教師	ほぼ同数	ほぼ同数

警察官や教員、医師が男女ともに描写されていたり、女性の宇宙飛行士や科学者、男性の保育士やフローリストが描かれていることは、職業におけるジェンダーの多様性が配慮されている結果だと考えられる。

### 5.2.2 家事に関わる行為

家事を描く絵を析出し、動作を捉えた。動作を捉えるにあたり、物質過程（動作主が何をしているか）を参考にした。

朝7時の各部屋の風景を描いた絵（図9左）では、典型的な性別役割分担が顕著に見られた。確認しやすいよう、黒い二重線（女性）と白い破線（男性）で典型的な性別役割分担が描かれた箇所を示した。

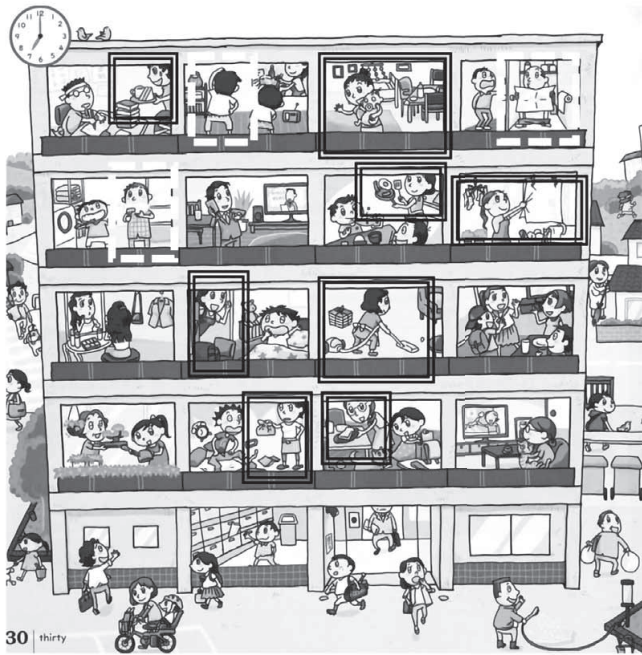


図9. 朝と夜の各住居の光景

図9左に描かれているように、母親と見られる女性は、家族のための食事の支度や掃除、洗濯、子供の世話、家の掃除など、家事全般と言われることに従事していた。一方、父親と見られる男性は、歯を磨いたり、子どもと体操をしたり、トイレで新聞を読んでいたり、おもに自分のために時間を過ごす様子が描かれ、母親とは異なる時間の過ごし方であった。図9左の1階には、入り口にいる息子に手を振って仕事に出かける父親が描かれているが、同様な女性の描写は見当たらない。図9右に描かれている構図も同様な行為がほとんどであったが、最上階右側の家庭や、その下の階左から2部屋目では、男性が家事に携わる様子も描かれている。

さらに、図9で示した集合住宅以外にも親の性的役割分担の様子が描かれている箇所が析出された(図10)。たとえば、母親は調理や家族の世話をする行為者として描かれていることが多い。一方、父親は子どもとの団欒や新聞を読んでいた、家事を行う場面であってもゴミ出しや風呂掃除といった家事の一部を行う行為者として描かれている。父親が子どもとのレクリエーションや団欒として育児に参加することはあっても、母親の例にあるように、乳児をあやしたり、調理をする父親像が描かれていることはほとんどない。

【母親の例】



啓) 5年 p.53



啓) 5年 p.123



光) 5年 p.40



東) 5年 pp.18-19 他



東) 5年 p.27



教) 5年 p.8

【父親の例】



光) 5年 p.53 他



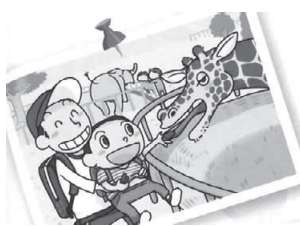
啓) 5年 p.31



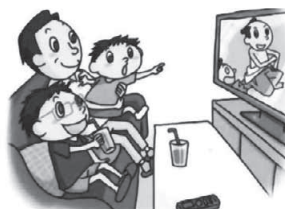
啓) 6年 p.61



啓) 5年 p.53



啓) 5年 p.53



啓) 6年 p.53 他



啓) 6年 p.53 他

図 10. 母親と父親の描写の違い

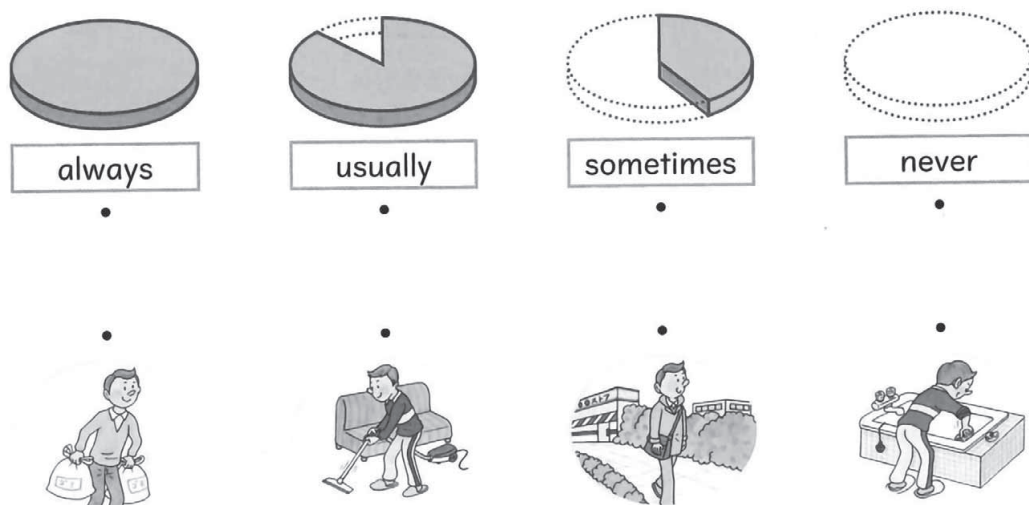


表 4 に家庭での親のジェンダー差による描かれ方の傾向をまとめる。

表 4：絵に表象される親のジェンダー別行為の特徴

行為	性別
家で調理をする	ほぼ女性
乳児の世話をする	女性のみ
家で新聞を読む	男性のみ
子どもと遊ぶ	ほぼ男性
買い物をする	ほぼ女性

NEW HORIZON Elementary 5 の単元では、頻度を表す副詞を学ぶため、担任である男性教員の家事負担の頻度を音声教材から聞き取り、イラストと答えをマッチさせる課題が掲載されている（図 11）。この単元では、担任の男性教員が、アメリカ人の女性教員から家事の頻度を尋ねられている。男性教員は、ゴミ出しを always、風呂の掃除を usually、部屋の掃除を sometimes、買い物を never と音声教材で発言している。加えて、音声のみではあるが、食器洗いを always と解答していた。



東) 5 年 p.76

図 11. 男性教員の家事役割のイラスト

同様に頻度を学ぶ単元で、家庭で家事を手伝う児童についての描写がある。児童は、男女ともに家事に従事する姿が描かれている（図 12）。

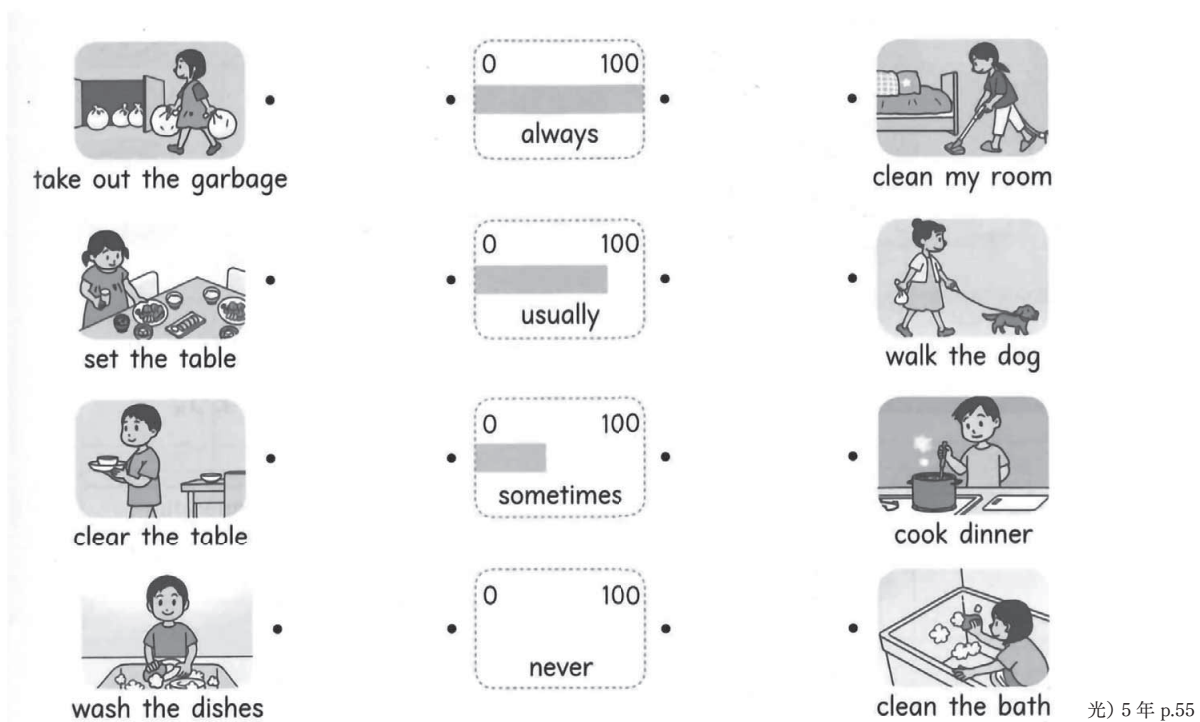


図 12. 児童の家事役割のイラスト

まれではあるが男性も家事に携わる描写があった（図 13）。しかし、男性単独で家事を行い、その脇で女性が寛ぐ場面はない。



開) 6 年 p.105



啓) 5 年 p.55



啓) 5 年 p.101

図 13. 男性が行う家事

#### 5.2.4 児童にまつわる描写

教科書の登場する児童の嗜好や児童が身につける衣料品の色は、画一性と多様性の両方が析出された。以下の段落においてそれぞれの特徴を示す。

男性が動的、女性が静的といった旧来の描写ではなく、サッカーをプレーする女子児童（図 14）といった活動的な女子児童が多く描かれている。



三) 5 年 p.59 他

教) 5 年 p.58

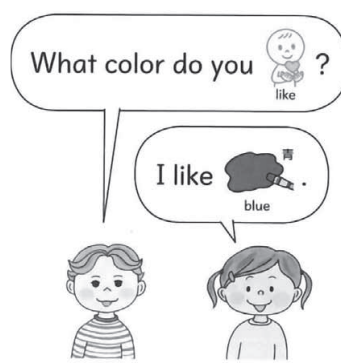
図 14. サッカーをする女子児童

また、NEW HORIZON Elementary における登場人物の紹介で、日本人小学生伊藤さくらはバレーボールを好み、木村ひろしは読書を好むという説明が日本語でなされている。そういったことばによる導入と重なり、教科書の読み手である児童は、従来の活動的な行為は男子に多いと言われる性的役割 (Sweet, 2013) に囚われないジェンダーの多様性を読み取ることができるだろう。

女子児童が暖色、男子児童が寒色といったステレオタイプ的な嗜好ではなく、前掲した教科書の表紙のイラストにもあるように、児童が身につける衣料品の色は多様性に富んでいた。図 15 が示すように、男女児童が身につけている洋服や帽子は、ジェンダーにかかわらず、さまざまな色が使用され、多様性が現れている。図 15 の左端のイラストでは女子児童が青いパーカー、右側男子児童はオレンジ色のシャツを着用しているし、図 15 真ん中のイラストでは青を好む女子児童が、図 15 の右端のイラストでは赤を好む男子児童が描かれていた。



開) 5 年 p.1



東) 5 年 p.12



東) 5 年 p.21

図 15. 児童が身につける衣料品の色

### 5.3 ことばと絵の両モード

本項では、ことばと絵の異モードにより具現される意味を検討する。

#### 5.3.1. 料理する行為と行為者

ジェンダーによる画一性は、物質過程 (to cook) と関連する絵にも散見された。また物質過程 (to cook) の動作主にあたる絵 (写真) は、女子児童であることが多い (図 16)。また、前述のように調理が得意であ

ることを意味する文（Hana is good a cooking. や I can cook very well.）では、Hana という女性名が使用されていたり（図 3）、I can cook very well. の横には、動作主の I が女子児童であることを示す絵が描かれている（図 4）。さらに、I like cooking. といい文は、女子児童が調理している写真とともに掲載されている（図 5）ほかにも、文ではなく単語レベルで、図 16 のような to cook と女子児童が関連するイラストも散見された。



図 16. 物質過程 to cook とその行為者（女子児童）

上掲の図 13 で真ん中のイラストの男子児童が料理をしているイラストのほかにも to cook を伴うイラストが見受けられた。しかし、男子児童が調理するイラストと物質過程（to cook）の表出は、女子児童のそれと比較し少ない（図 17）。図 17 の真ん中にある Sora は「×」の印とともに描かれているが、女子児童が調理するイラストに料理が苦手という描写はない。



図 17. 物質過程 to cook とその行為者（男子児童）

上述の物質過程（to cook）に加え、物質過程（to make）にも男女差が見られた。図 18 のように to make の過去形 made の行為者が女性の場合、対象は dinner, cookies, おにぎりといったように食べ物である。





I made  
dinner.

啓) 6 年 p.129



I made  
cookies.



啓) 6 年 p.101 他

図 18. 物質過程 to make の過去形とその行為者（女子児童）

一方教科書で図 18 の左端と真ん中のイラストに併記されているイラストにおいて、made の行為者が男子児童の場合、対象はプラモデルとなっている（図 19 右端参照）。



I made  
dinner.



I made  
cookies.



I made  
a model ship.

啓) 6 年 p.129

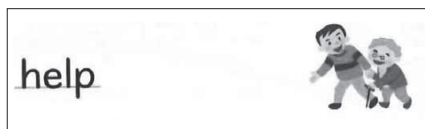
図 19. 物質過程 to make の過去形とその行為者と対象の違い（女子児童と男子児童）

### 5.3.2 助ける人と助けられる人

この項では、物質過程（to help）の行為者と対象のジェンダーの違いに焦点を当て、絵の部分を検討し、男性が頼もしい存在であるというアンコンシャス・バイアスの一例を挙げる。物質過程（to help）は、ジェンダーと結び付けられている場面が多かった。物質過程（to help）の行為者が男性、対象が女性という構図がある。いずれの場合も行為者は I であるが、この文の横には男性が描かれていた。助ける側の男性は、男子児童の場合（図 20）、成人男性の場合（図 21）があり、助けられる側は成人女性であった。図 20 の右端はイラストの行為者は女性だが、上部に書かれている名前は男子児童のものである。



学) 5 年 p.11



啓) 5 年 p.100 他



教) 5 年 p.62

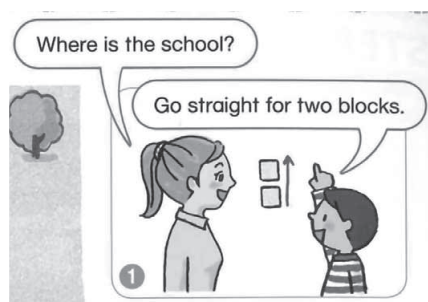
図 20. 物質過程 (to help) とその行為者 (男子児童) と対象 (年配女性)



東) 5 年 p.84

図 21. 物質過程 (to help) の行為者 (成人男性) と対象 (成人女性)

物質過程 (to help) 以外にも道案内をすることで人を助けるという場面でも、行為者は男子児童で、対象は成人女性であった (図 22)。



三) 5 年 p.87

図 22. 道案内をする男子児童

## 6 考察

職業では、ジェンダーによる画一性と多様性が析出された。校長のイラストは男性による描写が多数を占めていた。威厳の象徴でもある髭を蓄えて、描かれている場合もあった。このような描写は、高い地位にあ

る人は男性というメッセージを与えかねない。女子児童が将来就きたい職業のひとつであるフライトアテンダントは女性のみによる描写であった。社会では、女性の校長も多く活躍しているし、男性のフライトアテンダントもいる。このような描写の偏りはアンコンシャス・バイアスを再生産しかねないだろう。一方で、性差の多様性が見られた職業もある。科学者や宇宙飛行士、警察官、医師などが挙げられる。日本語では有標で表現されるリケジョや女医の描写は、性差に偏らない就業の機会を児童が考えるきっかけとなることになるだろう。

典型的な性別役割分担の構図は「男性は仕事、女性は家庭」というフレーズに現れている。集合住宅のイラスト（図9）では、家庭内での性的役割分担が顕著に現れていた。各戸での絵に描写された女性は家事にまつわる仕事や育児を行い、男性は仕事に向かうため自分自身のことをするという様子が描かれていた。家事を行う男性であっても、男性教員の例（図11）にあったように、男性の家事は描写されていたとしても家事の一部であり「手伝い」として補助的な役割に収まると解釈されてしまうことが大いに考えられる。社会や集団から期待される役割を認知し、ふさわしい行動様式を学習することは「役割取得」と呼ばれる（木村, 2013）。こういう場面を目にすることで、児童に性別役割分担の意識が再生産されてしまう可能性がある。学校に向かう息子を見送る側は、母親（図10 母親の例上段左から2番目）で、仕事に向かう父親は息子に見送られている（図9 左入口付近）。父親が子どもを見送るイラストや仕事に向かう母親を見送る子どものイラストがあれば、児童が親の多様な性別役割分担を理解することに繋がるかもしれない。

ジェンダー・マーケティングによると女の子向けのおもちゃは、美（beauty）や世話をすること（nursing）、家庭的であること（domesticity）に、男の子向けのおもちゃは、活動的な行為（action）や攻撃的なこと（aggressopm）、エキサイティングなこと（excitement）に焦点が当てられているという（Sweet, 2013）。児童に関する絵の描写では、多様性と画一性がともに析出された。教科書のイラストでは、サッカーをする女子児童やバレーボール好きな女子児童が活動的に描かれ、児童は、「女子児童も活動的である」という意味を読み取ることができる。一方、アンコンシャス・バイアスとも取られかねない描写もあった。料理にまつわる物質過程（to cook, to make）や調理する絵と女性や女子児童との深い関連は、アンコンシャス・バイアスの影響が考えられる。こういった描写は、女性が料理をするという性的役割分担を固定化してしまう恐れがある。たとえば、同じmadeであっても、上述のI made dinner. に伴う絵が女子児童であったことに対し、I made a model ship. ということばとプラモデルを作る男子児童が描かれていた（図19）。これは「家庭的であること」が女子向け、「エキサイティングなこと」が男子向けと焦点が当てられているジェンダー・マーケティングに沿った、アンコンシャス・バイアスの影響かもしれない。

児童が着用する衣料品については多様性が見られた。各教科書の表紙においても描かれているように女子児童が寒色を身につけていたり、男子児童が暖色を身につけていた。日本の子ども用の商品では、必要以上に性別による区別がされており、男子の衣類や日用品は、ブルーや茶色、グレイといった寒色、女子にはピンクや赤、オレンジなど暖色系を使用するという意識的、無意識的な区別がなされている（清水, 2003）。Sweet (2013) によれば、アメリカのジェンダー・マーケティングの世界では、おもちゃ売り場にはピンクやブルーによって女子と男子の区分けがされているという。こういった現状に拘ることなく、児童が身につける衣料品には、色の嗜好に対する多様性が反映されていると考えられる。小学校5年生を対象に2014年に行われた調査によると、男子の好みの色1位は金、2位が銀、3位が青となっている。一方、女子の好みは1位が水色、2位がピンク、3位が薄緑と順となっている（名取, 2015）。ジェンダー・マーケティングや調査結果による色彩が使用されていなかったことは、興味深い。

物質過程（to help）に関わることばと絵からは、助ける側の行為者は「頼り甲斐のある男性」であり、助けられる側の対象は「弱い女性」とであると解釈が可能となる。ジェンダーによる力の差は実際にあるし、弱い人を助けることは当たり前であるが、道案内のようなところで助ける側が女性で、助けられる側が男性として描写されているとするならば、典型的なアンコンシャス・バイアスを変えることに役立つかもしれない。

ジェンダーに限らず、多様性が求められている現代社会で、教科書、とくに異なる文化価値を学ぶ英語科教科書が、率先して新しいジェンダーロールを提示していくことが切要であろう。これは、必ずしもジェンダーロールを逆にすれば良いということではない。社会化により得られた価値観や嗜好ではなく、個人の価値観や嗜好が否定されることなく、活かされた社会を作るため、これまでの常識に囚われない形が重要となる。

## 7 おわりに

本稿では、2020 年度から小学校高学年で英語が教科化されたことに伴い、7 社によって出版された 14 冊の高学年向け英語科教科書をことばと絵を別々に析出したのち、各モードと絵とことばの両モードから具現される意味を検討した。

成人と児童の描写の違いが顕著であった。成人に関しては、職業も含め、旧来の性的役割分担が多く描写されていた。地位の高い役職である校長は、ほとんどが男性、フライトアテンダントは女性のみが描写されていた。警察官や医師、科学者などの職業は男女ともに描写されていたことは、児童が職業について考えるとき、リケジョや女医といった有標な語彙は存在するものの、特定の性的役割分担に囚われない幅広い選択肢の一助となるだろう。

家事にまつわる行為者は女性が描写されていることが多く、男性の家事への貢献は補助的に描写されていた。新聞を読んでいる描写は父親ばかりであったし、父親と子どもの関係を示す描写では、子どもと遊んでいる様子がほとんどだった。母親と子どもの関係を示す描写は、母親が子どもを世話をする様子が多く見られた。

児童に関しては、多様性をもった描写が多かった。女子児童が静的で男子児童が動的といった描写が数多く見られることはなく、男女ともに多少の差はあるものの極端に偏ることなく描写されていた。女子児童が暖色を好み、男子児童が寒色を好むといったステレオタイプ的な描写は見られず、教科書の表紙や教科書内でも児童が身につけるものの色合いは、多様性に富んでいるものであった。これは、ジェンダーの多様性を配慮した結果と言えよう。ただ、料理する（to cook, to make）や助ける（to help）といった一部の行為には、従来の性的役割分担が確認できた。

教科書に描写されていることばや絵が、児童の社会化に影響を与え、固定化した性別役割分担の再生産となり、日本の男女共同参画社会の促進を妨げる一因となりかねない。

今回はイラストと写真を含め絵として扱った。しかし、イラストと写真の媒体としての違いは存在し、異なる効果が生み出される（Goffman, 1979）。そのため、今後はイラストと写真とを別に扱うことも必要となるであろう。海外の児童向け教科書との比較や、小学校・中学校・高等学校の英語科教科書に対象を広げ縦断的な研究を行い、その画一性と多様性を検討したい。



---

## 註

- i Process type の後ろコロン以下は、過程型の一例  
ii 啓) は啓林館、東) 東京書籍、光) 光村図書、三) 三省堂、教) 教育出版、開) 開隆堂、学) 学校図書を指す。

---

## 参考文献

- 石川有香 (1999) 「コミュニケーションの観点から見た英語語法－高等学校英語教科書に見る人称代名詞と性別の問題－」『言語文化学会論集』12, 179-189.
- 石川有香 (2004) 「各種ガイドラインおよび高校英語教科書に見る敬称の問題」『女性学評論』18, 39-57.
- 石川有香 (2020) 「日本の中学校英語教科書に見る女性表象－男女共同参画社会を目指した英語教材研究－」石川有香 (編)『ジェンダーと英語教育－学際的アプローチ』(pp. 1-43) . 岡山: 大学教育出版
- 伊藤裕子 (2006) 「ジェンダーの心理学」海保博之・楠見孝 (監修)『心理学総合辞典』(pp. 440-446) . 東京: 朝倉書店
- 氏原陽子 (1997) 「教科書におけるジェンダーメッセージ: 中学校社会科・公民的分野の数量的分析」『名古屋大学教育学部紀要 教育学』44 (1) , 265-266.
- O'Halloran, K. L. (2011) . Multimodal discourse analysis. In K. Hyland, & B. Paltridge (Eds.) , *Companion to discourse* (3rd ed.) , (pp. 120-137) . London: Continuum.
- 木村涼子 (2013) 「性役割」木村涼子・伊田久美子・熊安貴美江 (編著)『よくわかるジェンダー・スタディ』(72-73) . 京都: ミネルヴァ書房
- Kress, G. (2009) . *Multimodality*. London: Routledge.
- Goffman, E. (1979) . *Gender advertisements*. New York: Harper and Row Publishers, Inc.
- Sandberg, S. (2015) . *Lean in*. London: Penguin Random House.
- Sweet, E. V. (2013) . *Boy builders and pink princesses: Gender, Toys, and inequality over the twentieth century*. [Doctoral dissertation, University of California Davis] .
- 清水隆子 (2003) . 「幼児の色彩選好と親のジェンダー意識」『早稲田大学大学院教育学研究科紀要別冊』第 11 号 1 巻 , 87-95.
- Thorne, B. (1993) . *Gender play: Girls and boys in school*. New Brunswick, N. J.: Rutgers University Press.
- 東京都教育委員会 (2021) 「令和 2 ～ 5 年度使用教科書採択地区別の採択結果 (公立小学校)」Retrieved from [https://www.kyoiku.metro.tokyo.lg.jp/school/textbook/adoption\\_policy\\_other/adoption\\_result/results\\_2020\\_public.html](https://www.kyoiku.metro.tokyo.lg.jp/school/textbook/adoption_policy_other/adoption_result/results_2020_public.html)
- 内閣府男女共同参画局総務課 (2021) 「アンコンシャス・バイアスへの気づきは、ひとりひとりがイキイキと活躍する社会への第一歩」『共同参画』第 5 号 . Retrieved from <https://www.gender.go.jp/public/kyodosankaku/2021/202105/pdf/202105.pdf>
- 永田麻詠 (2012) 「ジェンダーの観点から見た小学校国語教科書の考察: エンパワメントとしての読解力育成に向けて」『日本教科教育学会誌』35 (1) , 51-60.
- 名取和幸 (2015) 「男女児童が好きな色－ 2014 年調査から」『Color』163 号 retrieved from <https://www.jcri.jp/JCRI/hiroba/COLOR/buhou/163/163-2.htm>
- Bernstein, B. (1970) . A sociolinguistic approach to socialization: With some reference to educability. In F. Williams (Ed.) , *Language and poverty: Perspectives on a theme* (pp. 25-61) . New York: Academic Press.
- Halliday, M. A. K. (1994) . *An introduction to functional grammar* (2nd ed.) . New York: Edward Arnold.
- Bateman, J. A. (2008) . *Multimodality and genre: A foundation for the systemic analysis of multimodal documents*. London: Palgrave Macmillan.
- Van Leeuwen, T. (2021) . Multimodality and identity. London: Routledge.
- McGinn, K., and Tempest, N. (2010) . Heidi Roizen. Har
- 味舌文絵 (2017) 「小学校国語教科書の中に見るジェンダー」『奈良教育大学: 研究と教育』40, 44-32.
- 森住衛 (2020) 「日本の中高の英語教科書に見られるジェンダー問題を考える－題材の横断的・時系列的調査の試みを通して－」石川有香 (編)『ジェンダーと英語教育－学際的アプローチ』(pp. 81-117) . 岡山: 大学教育出版
- 守屋智敬 (2021) 「アンコンシャス・バイアス」『共同参画』第 5 号 , 4-5. Retrieved from <https://www.gender.go.jp/public/kyodosankaku/2021/202105/pdf/202105.pdf>
- Ruble, D. N., Martin, C. L., & Berenbaum, S. A. (2006) . Gender Development. In N. Eisenberg, W. Damon, & R. M. Lerner (Eds.) , *Handbook of child psychology: Social, emotional, and personality development* (pp. 858-932) . New York: John Wiley & Sons, Inc..
- Lemke, J. L. (1998) . Multiplying meaning: Visual and verbal semiotics in scientific text. In J. R. Martin and R. Veel (Eds.) , *Reading science: Critical and functional perspectives on discourses of science* (pp. 87-113) . London: Routledge.
- World Economic Forum (2021) . Global Gender Gap Report. Retrieved from <https://www.weforum.org/reports/global-gender-gap-report-2021>